

東国文化自由研究レポート



研究テーマ

人面付円筒埴輪

～数少ない人面付円筒埴輪が私達の地域に集結している！？～

提出日 2025年 8月26日 (火)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 2組 31番

氏名 山内 咲陽子

1. きっかけ

昨年の秋頃から冬にかけて、東京国立博物館で「はにわ展」が開催された。私は、太田市から出土された挂甲の武人埴輪に興味があったこと、母が土器や埴輪などの整理作業の仕事の事に携わっているということもあり、その展示会を訪れた。そこで見つけた、前橋市にある中二子古墳から出土された「人面付円筒埴輪」...この埴輪は、以前読んだ「HANI-本」に載っていて、印象に残っていた。「群馬HANI-1グランプリ」では6位に輝いた人気者だ。

実際に間近で見ることができ、気がつくやうに釘付けになっていた。その顔をまじまじと見ながら、ふと、心に引っかかりを覚えた。一般的に、円筒埴輪に顔はついていないはずだ。なぜこの円筒埴輪だけ顔がついているのか、または、この埴輪以外に人面付円筒埴輪は存在しているのか。前述のことが気になったため、人面付円筒埴輪をテーマに調べてみることにした。



はにわ展のポスター▲
(写真は挂甲の武人埴輪)

2. 疑問と予想

- (1) 一般的な円筒埴輪※1に込められた意味・役割は何か。
＜予想＞・亡くなった豪族があの世界へ行くときに、必要なものを入れる土器が必要だと考えられていた
- (2) 人面付円筒埴輪に込められた意味・役割は何か。
＜予想＞・他の豪族の古墳にない唯一無二の埴輪を作る（豪族からの希望）
- (3) 人面付円筒埴輪は複数存在するのか。
＜予想＞・全国各地に人面付円筒埴輪は存在している
- (4) 一般的な円筒埴輪※1と人面付円筒埴輪の共通点と相違点は何か。
＜予想＞・同じかまどで焼かれている
・埴輪を作るのに使われている道具が違う
- (5) 人面付円筒埴輪の顔はすべて違うのか。また、それぞれの顔の特徴はどのようなものか。※2
＜予想＞・人面付円筒埴輪の顔の中には笑っているもの、怒っているものもある
・鼻がない埴輪もある
- (6) 人面付円筒埴輪が出土された古墳の特徴はどのようなものか。
また、人面付円筒埴輪が出土された古墳の共通点はあるか。※2
＜予想＞・比較的大きい古墳（前方後円墳）から出土している

※1 ここでは、一般的な円筒埴輪の定義を「普通円筒埴輪、朝顔形埴輪、鐙付円筒埴輪」の3つとする

※2 (3)で人面付円筒埴輪が複数存在していることが確認できた場合のみ、調べる

3. 調査方法

〈実際の古墳、博物館、資料館等を訪ねる〉

場所	実施内容
大室はにわ館	・ 中二子古墳から出土された埴輪などを観察する ・ 中二子古墳についての資料をいただく
中二子古墳	・ 中二子古墳の説明パネルを読む
粕川歴史民俗資料館	・ 中二子古墳から出土された人面付円筒埴輪を観察し、他の円筒埴輪（大室はにわ館にあったもの）と比較する※A ・ 職員の小竹さんから人面付円筒埴輪について載っている資料をいただく
赤堀歴史民俗資料館	・ 伊勢崎市から出土した埴輪などを観察する
太田市教育委員会文化財課（尾島庁舎）	・ 文化財課の岩井さんから今泉口八幡山古墳から出土した人面付円筒埴輪などを見せていただき、観察し、お話を伺う ・ 資料「太田市の古墳」をいただく
玉村町歴史資料館	・ 小泉大塚越7号古墳から出土された人面付円筒埴輪（以下「塩顔埴輪」）を観察する ・ 塩顔埴輪に関連する資料をいただく
足利市郷土資料展示室	・ 行基平山頂古墳から出土された人面付円筒埴輪を観察する ・ 報告書「行基平山頂古墳 発掘調査報告書」を購入 ・ 職員の齋藤さんから発掘当時の話等を伺う

4. 調査

(1)一般的な円筒埴輪に込められた意味・役割

円筒埴輪は、墳丘を囲むように列に並んでいることが多い。そのため、聖域である古墳を周囲から区別する結界のような役割を持っていたと考えられる。他の説としては、古墳を豪華に見せるための飾り、魔除け、豪族への供え物、当時の身分社会の象徴、などが考えられている。弥生時代の王の葬礼のお供え物を入れる壺と、それを乗せる台が簡略化してできたと言われている。



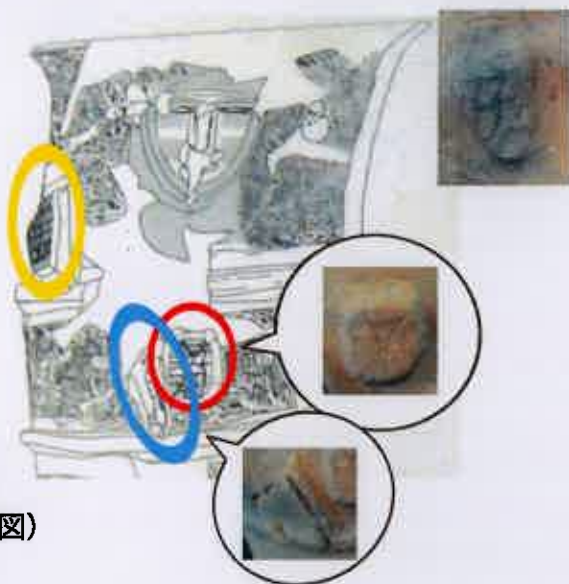
(2)人面付円筒埴輪に込められた意味

太田市教育委員会文化財課の岩井さんによると、私が予想していた職人の遊び心によって顔がつけられた可能性は低いようだ。決定的な証拠はない。しかし、埴輪は豪族たちの権力

を表すものでもある。職人が独断で顔をつける可能性は極めて低く、豪族側から要望されたのが自然な流れだと考えられる。

足利市郷土資料展示室の齋藤さんも、岩井さんと同じような考えを持っていて、豪族が特別な意味を含めて作ったのだと言う。そして、「人面付円筒埴輪は盾持ち人埴輪のような役割を担っていたのではないかと推測している。理由は、様々な武器や装身具が人面付円筒埴輪についているからだ。（写真1の赤丸、青丸、黄丸参考）赤丸で囲った部分※Aは、「|」、一、×」がかかれていて、武器や装身具と見られている。青丸で囲った部分※Bは、弓と見られている。黄丸で囲った部分※Cは、逆三角形で、矢入れ具の胡籬（ころく）と見られている。

そのため、顔は魔除けの意味が込められており、亡くなった豪族から悪いものを守るために作られたと予想される。（右の写真は行基平山頂古墳から出土した埴輪の実測図）



(3)人面付円筒埴輪は複数存在するのか

結論を先に書くと多くはないが人面付円筒埴輪は複数存在する。そのため(5)(6)についても調べる。ただし、その全てが、今のところ現在の群馬県から栃木県南部にかけての一部の地域からのみ出土している。

具体的には

- ①中二子古墳（群馬県前橋市）
- ②今泉口八幡山古墳（群馬県太田市）
- ③小泉大塚越7号墳（群馬県太田市）
- ④行基平山頂古墳（栃木県足利市）
- ⑤下郷天神塚古墳（群馬県高崎市、玉村町）
- ⑥井出二子山古墳（群馬県高崎市）
- ⑦蟹沼東第28号墳（群馬県伊勢崎市）
- ⑧上神主狐塚古墳（栃木県上三川町）

などから発見されている。

私は下線がついている①～④の古墳を中心に、出土された人面付円筒埴輪を調べた。ここでは下線がついていない古墳から出土された人面付円筒埴輪を紹介する。（⑤～⑧）

古墳番号	形状 時代	器高	外面	内面	顔の特徴 ※A	写真 古墳の特徴
⑤	3条4段 5世紀 初頭	66.8	縦ハケ 後2次 ハケ ※B	指ナデ ※C	目:楕円形 口:台形 耳:縦3.6/横4.2 ・入れ墨はすべて線刻	 前万後円墳 全長102m

⑥	5条6段 5世紀 後半 ～6世 紀初頭	77	縦ハケ か	不明	目:細い楕円形 鼻:縦長 口:細長い半円形 ・目、口を切り込み ・鼻を年度貼り付け		前方後円墳 全長108m
⑦	不明 5世紀 中頃	不明	粗い 縦ハケ	縦ハケ	目:崩れた楕円形 鼻:長さ2/幅0.8 口:崩れた楕円形 ・目、口を切り込み ・輪郭、鼻を線刻		円墳直径約15m
⑧	3条4段 か 6世紀 以降	不明	縦ハケ	斜めハ ケ 指ナデ	目:不整形 鼻:縦長 口:凹字状 ・目、口を切り込み ・鼻を粘土貼り付け ・外面の縦ハケ調整は ナデ消していない		帆立貝形古墳 全長40.3m

- ※A 鼻や耳、眉について供述されていないものもあるが、必ずしもないと言い切れず、あるかどうか不明である
 ※B 横ハケのことで、継続的なB種を指している。木版を止めながら一周し、止めた際の痕が縦の条線として残る
 ※C 指でや板でなでて表面を滑らかにさせること

(4)一般的な円筒埴輪と人面付円筒埴輪の共通点・相違点

(小泉大塚越古墳の詳しい内容も含む)

▼ 塩顔埴輪 (小泉大塚越7号古墳)



普通円筒埴輪

小泉大塚越古墳※D▶



※D 号墳はそれぞれ違う

5枚目の左下の写真と右下の複数の写真を比べてみる。どちらも、小泉大塚越古墳から出土されている（号墳は違う）。塩顔埴輪の復元高が63cmなのに対して、他の普通円筒埴輪の高さは30cm代が多い。ここから、改めて人面付円筒埴輪を一から作ろうとしていたと考えられる。つまり、職人がたまたま置いてあった円筒埴輪に顔をつけたとは考えにくい。また、塩顔埴輪の頭部に注目すると、王冠をかぶっているようだ。（＝男性をモチーフにしていたという証でもある）このことから、豪族から頼まれてはじめて作ろうとしたことがわかる。

4枚目の上半分に書いたように、人面付円筒埴輪が盾持人埴輪のような役割を担っているという仮説についても検証する。右にある左写真は小泉大塚越3号墳から出土された人物埴輪（盾持ち人）で、右写真は塩顔埴輪と同じ小泉大塚越7号墳から出土された盾形埴輪だ。2つだけではなく、他にも同じようなものがある。私が考えるに、やはり齋藤さんの推測通り、盾のような役割が人面付円筒埴輪にもあり、豪族は自分を悪いものからたくさんの盾で守ってほしいと思っていたのだと思う。また、こころなしか盾持ち人埴輪の表情が塩顔埴輪に似ている気がする。そのため私は、計画的に、この2つを作ったのではないかと推測している。



小泉古墳群について。6～7世紀に作られたとされている。号墳は計10墳あり、3号墳が最も大きい（全長46m）。そのためか、普通円筒埴輪が3号墳からよく出土されている（356本を数える）。これだけ多くの普通円筒埴輪が出土されているにも関わらず、3号墳から人面付円筒埴輪は見つかっていない（塩顔埴輪は7号墳〈推定径10.8m〉から見つかっている）。他には、3号墳の石室から見つかった冠の破片が注目されている（右写真）が、塩顔埴輪の冠と関係があるのかもしれない（時代は違うと考えられるが）。ちなみに、前橋市金冠塚古墳にも類似例がある。塩顔埴輪と関係のある7号墳の円筒埴輪全てに結晶片岩がある。7号墳に埋葬された人物は、1号石室から少なくとも7体（男性6女性1）4～5歳の子供2体の他、殆どが20～30代である。2号石室からは推定1体（年齢・性別不明）が見つまっている。私は1体しか発見されていない2号石室が特別であると感じ、この人が人面付円筒埴輪を提案したのではないかとわずかの可能性を考えている。備考：調査会1999『川井箱石遺跡』



(5)人面付円筒埴輪の顔について（一部顔以外も含む）

例として行基平山頂古墳（栃木県足利市）を挙げて人面付円筒埴輪の顔について説明する。ここから出土された人面付円筒埴輪は7体と、1つの古墳から複数の人物付円筒埴輪が見つまっている。一つの古墳から異なる形態の人面付円筒埴輪が複数確認されたのはこの古墳が初めてだ。そのため、一つ一つに違う意味が込められている可能性が高い。ただし、この7体全てに共通した大きい意味が込められていると私は考えている。その意味として、調査の(2)に前述したとおり、「魔除け」...すなわち、笑っているのが魔除け、怒っているよ

うなのが魔除け、真顔なのが魔除け、という意味を当時は持っていたと言えるだろう。それぞれの顔については下の実測図の写真を参考にしてほしい。



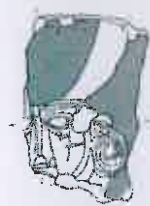
▲実測図1



▲実測図2



▲実測図3



▲実測図4



▲実測図5



▲実測図6



▲実測図7

- 補足説明：実測図1 上下で使われているハケが違う
 実測図2 右頬に入れ墨——線刻 顔面と右耳の間には美豆良(みずら)——粘土紐
 実測図3 左目から口下にかけて入れ墨——線刻 右目横には美豆良——粘土紐
 実測図4 頭部は黒彩 左耳孔下には耳環(みみわ)
 実測図5 顔面右頬の一部分のみ 右頬に入れ墨表現——線刻
 実測図6 口縁部の外面ハケ調整を消しきれていない 輪郭や鼻の貼り付け方が雑
 実測図7 人面部の破片のみ 比較的丁寧に外面をナデ消している

(6)人面付円筒埴輪が出土された古墳の特徴・共通点

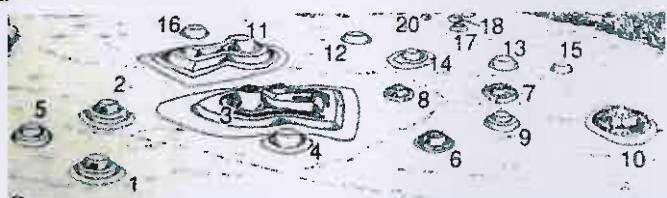
まず、調査の(3)で書いた古墳の種類をまとめる。

- ①中二子古墳——大室古墳群（前方後円墳）
- ②今泉口八幡山古墳——菅の沢古墳群（前方後円墳）
- ③小泉大塚越7号墳——小泉古墳群（円墳推定）
- ④行基平山頂古墳——機神山古墳群（前方後円墳）
- ⑤下郷天神塚古墳——下郷古墳群（前方後円墳）
- ⑥井出二子山古墳——保渡田古墳群（前方後円墳）
- ⑦蟹沼東第28号墳——蟹沼東古墳群（円墳）
- ⑧上神主狐塚古墳——神主古墳群（帆立貝形古墳）

一般的に前方後円墳は最も格式の高い形式とされている。①

～⑧までの間、③・⑦・⑧は前方後円墳ではない。特に注目

したいのは、③の小泉古墳群の7号墳から人面付円筒埴輪が出土されたことだ。この古墳群で1番大きい古墳は前方後円墳である3号墳である。つまり、人面付円筒埴輪は必ずしも大きい古墳（地位が高い豪族の古墳）にあるとは限らない。＊右上の写真は小泉古墳群想像図



1.小泉大塚越第1号古墳 2.小泉大塚越第2号古墳 3.小泉大塚越第3号古墳
 4.小泉大塚越第4号古墳 5.小泉大塚越第5号古墳 6.小泉大塚越第6号古墳
 7.小泉大塚越第7号古墳 8.小泉大塚越第8号古墳 9.小泉大塚越第9号古墳
 10.小泉大塚越第10号古墳 11.二子山古墳(「上毛古墳群」(志保村第八号))

次に、人面付円筒埴輪が群馬県や栃木県南部に集中しているかを調べる。右上に群馬県・栃木県を中心とした地図がある。その中にある赤い点が人面付円筒埴輪の見つかった場所だ。

右下の写真は人面絵画などの分布である。ここからわかることは、昔から人間のような顔（人面）をお守りの存在につけていたこと。そして、地域によって系統差があることだ。指標として、顔の輪郭線とひげの表現の組み合わせによって系統が変わる。顔の輪郭線はあるが、ひげの表現を欠く型、顔の輪郭線とひげの表現をともに持つ型、顔の輪郭線を欠くがひげの表現を持つ型の3つが存在する。私はここで、人面付円筒埴輪もこのような型に当てはまるのかと疑問をいだいたのだが、人面付円筒埴輪はひげの表現がないことが多いので当てはめられなかった。ただ、輪郭線を描いているものもあれば、描いていないものもあるので、この点については少し共通している気がした。

追記

本文では紹介しきれなかった、人面付円筒埴輪が出土した古墳について

↑考察でも参考にする

中二子古墳

形象埴輪のほとんどと円筒埴輪の一部に、海綿骨針（かいめんこっしん）の化石と結晶片岩（けっしょうへんがん）の砂粒が入ることから、藤岡周辺で制作されたと考えられている。盾持人埴輪も見つかっている。

今泉口八幡山古墳

太田市の文化財課の岩井さんから実際の人面付円筒埴輪を見せていただいた※E（博物館などで展示されていないため直接見る事ができた）中二子古墳で見た真顔の人面付円筒埴輪とはまるで別物で、笑っていた。この表情にも魔除け的な意味が込められていると考えられている。ヘラ状の道具で外面から顔をつけ、ハケ目を木のヘラで整えたと予想される。この古墳からは他にも、須恵器や弓、耳飾り的なものもあったことから、地域では比較的地位の高い豪族の古墳だったのではないかと考えられる。また、私は他の埴輪※Fとの共通点と相違点を知りたかったため、この2つを比べてみた。同じかまどで焼かれたかについては、表面的な色、断面の色、そしてこの古墳にはあったキラキラの粉のようなものがあるかどうかの3つの視点で調べる。結果、この3つにすべて当てはまったため、人面付円筒埴輪は他の埴輪とほとんど同じ素材でできていると考えられる。（＝同じかまどで焼かれた可能性が高い）どこのかまどで焼かれたかについては、太田市周辺だろうということだった。



埴輪は重く、当時は運ぶのが大変だったため、遠くのかまどから送るのは困難だったのだろう。予想としては、駒形神社埴輪窯跡か金井口埴輪窯跡のどちらかと思う。6世紀ごろから素焼きという方法が流通しており、埴輪窯が斜面を必要とすることから山を上手く使ったと考えられる。右の地図は埴輪窯の場所が載っている。黒丸が囲っている星マークが今回候補として浮上した埴輪窯である。



5. まとめと考察

疑問の答えをまとめる。ただし、必ず調査の(番号)通りから書き抜いているとは限らない。

例：(4)の「同じ土から作られている場合もある」は調査の追記から書き抜いている

- (1) 一般的な円筒埴輪に込められた意味・役割は何か。
 - ・有力な説として、結界のような役割を持っているとされている
 - ・古墳を豪華に見せるための飾り
 - ・魔除け
 - ・身分社会の象徴
- (2) 人面付円筒埴輪に込められた意味・役割は何か。
 - ・盾持ち人埴輪のような役割を担っていたと考えられる
 - ・ようは魔除け
- (3) 人面付円筒埴輪は複数存在するのか。
 - ・複数存在する
- (4) 一般的な円筒埴輪※1と人面付円筒埴輪の共通点と相違点は何か。
 - <共通点>
 - ・同じ土から作られている場合もある
 - ・魔除けという役割
 - <相違点>
 - ・大きさが違う場合がある
 - ・性別という概念がある（人面付円筒埴輪はほとんどが男性）
- (5) 人面付円筒埴輪の顔はすべて違うのか。また、それぞれの顔の特徴はどのようなものか。
 - ・顔にはバリエーションがある
 - ・全て当時魔除けに効果があると考えられていた表情だと推測
 - ・笑っている、怒っている、真顔などがある
- (6) 人面付円筒埴輪が出土された古墳の特徴はどのようなものか。
また、人面付円筒埴輪が出土された古墳の共通点はあるか。
 - ・人面付円筒埴輪が発見された場所は群馬県と栃木県南部が多い

6. 感想

このテーマについて調べる際、人面付円筒埴輪の数が思ったより少ないことを知った。だから最初は「本当にこのテーマだけでレポートを書ききれかな...」と不安にも思った。しかし、人面付円筒埴輪は幸運なことに、この地域に集結していた。近場が多いので、たくさん場所で検証し、見学することができた。人面付円筒埴輪について調べれば調べるほど、情報が出てくる。探し求めていた情報を手に入れたとき、私は「もっと知りたい!」と新たな疑問が湧いてくるのだ。私は幼い頃から一つのことに熱中するタイプではないと思っていたのだが、このテーマを調べるときは違った。当初は1週間でレポートを終わらせる予定だったが、知りたいことがどんどん増えていき、最終的に1か月間調べ続けた。これにより、少し研究者たちの気持ちがわかったような気がする。自分が知らない世界を知るたびに、驚きと、そして満足、何よりこれから調べたいことがひらめいていく...楽しかった。これに尽きる。

人面付円筒埴輪は果たして埋葬された豪族自身を表していたのか。そして、群馬県から栃木県南部に集中している理由は何か。この1か月だけではわからないことも多かった。このレポートだけで研究を終わらせたくないと思った。これからも昔のことに想像を膨らませながら、人面付円筒埴輪、ひいては歴史全般について調べていきたい。

7. 参考文献

資料

- ・あしかがの歴史と文化 再発見! (発行 足利市美術館)
- ・わくわく! はにわ体験ブック (企画編集 かみつけの里博物館)
- ・玉村のはにわー集める、見る、愛でるー (編集発行 玉村町歴史資料館)
- ・小泉古墳群 (発行 玉村町歴史資料館)
- ・太田市の古墳 (発行 太田市教育委員会文化財課)
- ・行基平山頂古墳発掘調査報告書 (発行 足利市教育委員会)
- ・中二子古墳 (編集発行 前橋市教育委員会文化財保護課)
- ・HANI-本 (企画編集 群馬県文化振興課)

ウェブサイト

- ・東京国立博物館ホームページ
- ・Craft MAP craftmap.box-i.net/sozai.php?no=0162-5
- ・Hugkum hugkum.sho.jp/354633
- ・備陽史探訪の会 bingo-history.net/archives/23492
- ・全国子ども考古学教室 kids-kouko.com
- ・ツカッテ tsukatte.com/terms/

謝辞

資料を提供してくださった粕川歴史民俗資料館の小竹さん、貴重な時間をさいて丁寧に詳しく教えてくださった太田市教育委員会文化財課の岩井さん、足利市郷土資料展示室の齋藤さんに感謝申し上げます。